

前回の会合(東海再処理施設等安全監視チーム)における主な論点と対応について

平成 28 年 4 月 28 日  
日本原子力研究開発機構

分類	No	コメント	会合	資料	対応状況
リスク	1	リスクについて規則等に照らして分類等評価するということであれば、考え方を示すこと。また、重要度の見直し結果についても評価が終わっているのであれば、今後示すこと。	第1回	資料 1 東海再処理施設における安全性向上の取り組みについて	次回会合以降で提示予定。
	2	高放射性廃液貯槽について、耐震安全性、水素掃気、冷却、施設の高経年化などのリスクが時間(処理)とともにどう変化をしていくのか具体的に検討し、どういったやり方(減らし方)がいいのか検討結果を示すこと。	第1回	同上	耐震性、水素発生、発熱の観点から6基(うち1基予備)ある高放射性廃液貯槽の各貯槽の貯蔵量を平均的に減少させる旨、今回の会合にて提示。 <b>第2回会合 資料1 1. 東海再処理施設における安全性向上の取り組みについて</b>
全体工程	3	工程洗浄運転や除染といったものが廃止措置のフェーズに入るのか、今の段階の許可の中になるのか、全体の工程を示すこと。	第1回	同上	工程洗浄運転は、現許可の中で実施する事項である旨、今回の会合で説明。(系統)除染は廃止措置段階で実施する予定。 <b>第2回会合 資料1 1. 東海再処理施設における安全性向上の取り組みについて</b>
	4	現在、横棒になっているものについても、将来的にどうなるのか、個別の施設にどういうリスクとか課題があり最終的にはそれがどういう形で、対応されていくのか次回以降説明すること。	第1回	同上	各施設のリスクや廃止措置工程のイメージについて、機構全体のバックエンド対策を踏まえたロードマップの具体化が必要であり、その検討に時間がかかっており、次回会合以降で提示予定。

前回の会合(東海再処理施設等安全監視チーム)における主な論点と対応について

分類	No	コメント	会合	資料	対応状況
全体工程	5	東海再処理施設の廃止措置に向けた全体的なことは、非常に大きな課題、難しい問題が多々あると思うが、必ずしも機構として戦略的、計画的に十分取り組まれて来ていると思えない、十分ではないと思っている。是非計画的、戦略的に取り組んでいただきたい。	第1回	同上	東海再処理施設の廃止措置についても施設マネジメント推進会議等を通して機構全体で取り組む旨、今回の会合で説明。 <b>第2回会合 資料2 2. 原子力機構における高経年化対策について</b>
	6	新規制基準に沿って安全を確保しながら廃止措置を行っていくこと、多種多様な多くの廃棄物を長期に亘って安全に管理し、そして最終的には処理処分していくための、全体の計画、マスタープランをきちんと策定すること。 非常に長期的な話なので、数十年くらいの長期的な計画、もう少し中期的な10年くらいの計画、それから短期的な1年から数年程度の当面の対応についての計画についてロードマップを作成し示すこと。	第1回	同上	No.4と同じ。

前回の会合(東海再処理施設等安全監視チーム)における主な論点と対応について

分類	No	コメント	会合	資料	対応状況
全体工程	7	今やっている Pu の転換とか高レベルの廃液のほかにも相当リスクレベルが高いというところが多々ある。今回の Pu の転換作業だけではとりきれない核燃料物質の回収は、ある種の運転に近いようなもの。クリプトンの放出とか、将来施設とか RETF とか LWTF とか、こういう施設を今後どうやって使っていくかという様々な問題をかかえていく中で、廃止措置の手続きの話も出ており、新規制基準の適用もあり、必要な手続きがそれぞれたくさんあるとの認識。必要な手続きが新規制基準に確実に適合させていくべきものと、それからある程度リスクを下げて先ほど言ったような除染みたいな話になるとより廃止措置に近かったりするようなものもあるのでこういうところをきちっと整理していかないといけない。	第1回	同上	No.4 のロードマップ作成に合わせて種々の課題の関係を整理し、次回会合以降で提示予定。
セメント固化	8	廃棄物の話で最終的にセメントにするという話があったが、全部セメントがいいかどうか、色々意見を交わしたい。	第1回	同上	別途、面談の場にて対応予定。